

# 日本情報考古学会会報

NEWSLETTER OF THE JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION No.35 January 2015

## 目次

日本情報考古学会第33回大会 in Tokyo の記録	1
日本情報考古学会第33回大会プログラム(記録)	3
2014年度日本情報考古学会学会賞	5
2014年度日本情報考古学会総会報告	5
2014年度第1回理事会議事録	6
学会誌『情報考古学』の発行形式について	7
第34回大会の開催・発表募集について	8
『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布	8
お願い	8

## 日本情報考古学会第33回大会 in Tokyo の記録

2014年9月27・28日、日本情報考古学会第33回大会が東京農工大学小金井キャンパスで開催されました。今大会のテーマは「文化財記録の新地平」。テーマに関する特別講演、研究発表(一般講演)のほか、その他幅広い領域の研究発表が行われました。

研究発表は24件、うち4件はポスターセッション形式で、最近の傾向として発表件数が増加しています。じつに多様な分野・学際的分野の発表で、堅実な基礎的研究あり、応用研究の実例報告あり、斬新で刺激的な研究ありで、活気に満ちた大会となりました。近年の目新しい分野としては、パブリック考古学に関するものや認知科学を応用したものなどが加わっていることが挙げられると思います。

今回もベテランから若手まで幅広い世代の発表があったことは、喜ばしいことです。様々な分野の研究者が協力しあい相互に刺激しあう場として、また若手の成長を促す場としても、大会が役割を果たしているようです。さらなる発展に向けて、今後も会員の皆さんのいっそうのご協力と積極的なご参加をお願いしたい



開会式。植村俊亮大会実行委員長の挨拶。

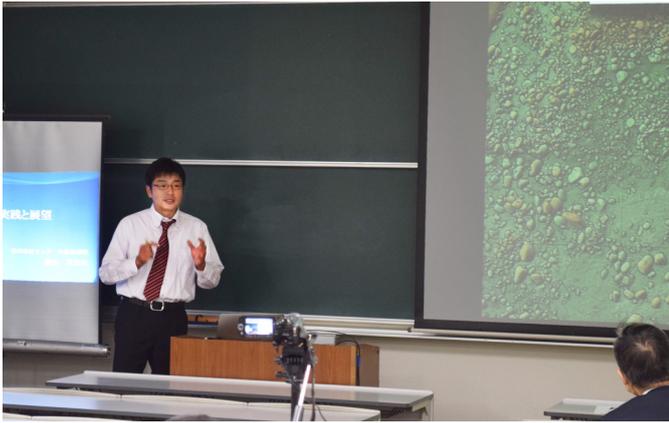


会場と発表の様子。

と思います。

1日目は、大会実行委員長の植村俊亮先生による開会挨拶で始まり、農工大は植村先生が勤務されていたこともあり、思いのこもった挨拶をいただきました。1日目は、3セッション12件の研究発表を終えて、夕刻、農工大の140周年記念会館エリプスで懇親会が行われました。植村先生の乾杯の音頭で始まり、和やかで楽しいひとときを過ごしました。また、今回の大会の開催にあたってお世話いただいた農工大の中川正樹教授に、熱意とユーモアのこもった素晴らしいスピーチをしていただきました。

2日目は10時より始まり、1セッション3件の研究発表のあと、午前の最後は今大会のテーマに関する特別講演。高度な文化財の三次元記録等、開発と



特別講演。横山真先生。



懇親会の様子。

実践に取り組んでこれら多くの実績をお持ちの横山真先生（株式会社ラング 代表取締役）に、「立体考古学の実践と展望」と題して行っていただきました。静かななかにも情熱あふれるとてもよいご講演でした。お忙しい時間を割いて講演をご快諾いただいたことに、あらためて感謝したいと思います。

お昼に総会が開催されました。引き続き、学会賞授賞式が行われ、植木武会長より表彰状と記念の盾が贈られました。今年度は日本情報考古学会論文賞1件、日本情報考古学会堅田賞（優秀賞）2件でした。受賞者の方々には遠方より授賞式にご出席いただきました。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



一般講演。



昼食後は、ポスターセッションの解説時間でした。大会では昨年度よりポスターセッションを導入しましたが、定着してきた感がありました。

その後、最後のセッションの発表が行われ、植木会長の閉会挨拶をもって、無事、全日程が終了しました。

今大会は、これまでで最も多い発表件数でした。全体として議論が多く行われ、活気に満ちた大会だったという声が多く聞かれました。また、前回・前々回大会と同様、女性若手研究者の活躍も目立ちました。

なお、会期中、大学近辺にお住まいの方が看板を見られて、ぜひ聴きたい発表があるから参加できないか、との問い合わせがありました。本学会は、もとより参

加自由ではありますが、学術の社会還元や地域貢献について、意識的に取り組むべき課題と思えました。

こうして、多くの方々のご尽力により、無事2日間の日程を終えることができました。今回の大会の開催にあたって、開催校の中川正樹教授をはじめ研究室の方々には多方面にわたりご協力いただきました。深く感謝申し上げます。

最後に、大会実行委員会の組織と芳名を記して感謝の印といたします。

委員長 植村俊亮／副委員長 山口文彦／委員 末代誠仁、岡安光彦、中園 聡



ポスターセッションの様子。



学会賞授賞式。

## 日本情報考古学会第33回大会プログラム（記録）

日本情報考古学会第33回大会は、以下のような日程・内容でした。記録としてプログラムを掲載します。

期日：2014年9月27日（土）・28日（日）

会場：東京農工大学 小金井キャンパス（東京都小金井市中町2-24-16）工学部講義棟 L0022 教室

### —大会プログラム—

テーマ：「文化財記録の新地平」

9月27日（土）

開会式 13:00-13:10

開会挨拶 大会実行委員長 植村俊亮

（座長 山口文彦）

研究発表1 13:10-13:30

少子高齢化社会の発掘調査—公開データから読む「すでに起こった未来」

岡安光彦（株式会社四門 文化財事業部）

研究発表2 13:30-13:50

前方後円墳築造に使用したものさしの推定についての再考

西村 淳（函館大学）

研究発表3 13:50-14:10

古墳のデジタル計測における TIN 作成のアルゴリズムとその利点、欠点—岡山県小造山古墳と小ぐる古墳の測量調査から—

庄 政典（(株) アクアプランニング）

研究発表4 14:10-14:30

三角縁神獣鏡の同型鏡の同伴関係とネットワークの視覚化

杉本厚典（大阪歴史博物館）

研究発表5 14:30-14:50

鹿児島県内の古墳時代の須恵器の産地問題

三辻利一（鹿児島国際大学）、新東晃一（南九州考古学研究所）、中村耕治（(公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）、永濱功治（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、西園勝彦（同）、上床 真（同）

（座長 黒木梨絵）

研究発表6 15:00-15:20

新潟県上越市用言寺遺跡における災害履歴と人々の営み—考古学と周辺諸科学の総合的研究—

加藤 学（(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団）

研究発表7 15:20-15:40

江戸城石丁場遺跡の総合的研究（1）

三瓶裕司（公益財団法人かながわ考古学財団）

研究発表 8 15:40-16:00

北部九州の甕棺墓および墓地における行為の復元の試み  
新屋敷久美子 ((公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター)

研究発表 9 16:00-16:20

認知科学に根ざした考古学的鑑識技能研究：意義と方法論を中心として  
時津裕子 (徳山大学)

(座長 時津裕子)

研究発表 10 16:30-16:50

沖縄県久米島具志川城跡の地球電磁気研究  
酒井英男 (富山大学)、菅頭明日香 (同)、米原実秀 (同)、岸田 徹 (同志社大学)、中島徹也 (久米島自然文化センター)

研究発表 11 16:50-17:10

考古学における「個人」に関する試論—個人の実証的把握とその目指すもの—  
平川ひろみ (鹿児島国際大学大学院)

研究発表 12 17:10-17:30

土器における同一製作者「個人」の高精度同定法—方法論に関する暫定的まとめ—  
中園 聡 (鹿児島国際大学)

懇親会 18:00- 於 東京農工大学 140 周年記念会館エリプス  
9月28日(日)

(座長 新屋敷久美子)

研究発表 13 10:00-10:20

低視覚的属性からみる土器カテゴリーの復元—製作者の態度に関する認知考古学的検討から—  
黒木梨絵 ((公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター)

研究発表 14 10:20-10:40

九州弥生時代中期における丹塗甕の検討—地域的変異の検出と比較から—  
太郎良真妃 (鹿児島国際大学大学院)

研究発表 15 10:40-11:00

「折衷土器の製作者」再考—土器における「折衷」のメカニズムと評価をめぐる—  
平川ひろみ (鹿児島国際大学大学院)

特別講演 11:00-12:00

立体考古学の実践と展望  
株式会社ラング 代表取締役 横山 真 先生

総会、学会賞授賞式 12:00-12:30

ポスターセッション解説 13:00-13:40 ※タイトル別記。

(座長 佐藤宏介)

研究発表 16 13:40-14:00

香川県小豆島町福田地区における博物館活動の展開  
川宿田好見 (同志社大学文化遺産情報科学研究センター)

研究発表 17 14:00-14:20

考古科学を多用した研究体験の実践—鹿児島国際大学における日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」の活動等に関わって—  
若松花帆 (鹿児島国際大学)、平川ひろみ (同大学院)

研究発表 18 14:20-14:40

古文書字形検索サーバの設計と試作  
末代誠仁 (桜美林大学)、白井啓一郎 (信州大学)、馬場 基 (奈良文化財研究所)、渡辺晃宏 (同)、井上 聡 (東京大学史料編纂所)、久留島典子 (同)、中川正樹 (東京農工大学)

研究発表 19 14:40-15:00

手書き文字認識手法を用いたロンゴロンゴ記号の類似度  
山口文彦 (慶應義塾大学理工学部情報工学科)

研究発表 20 15:00-15:20

失われた言語チュノムによる古文書の完全電子化に向けて  
中川正樹 (東京農工大学)、Phan Van Truyen (同)

閉会式 15:20-15:30

閉会挨拶 日本情報考古学会会長 植木 武

※ポスターセッション

研究発表 21

考古学的分類技能の獲得過程：評定課題と主成分分析を用いて  
時津裕子 (徳山大学)

研究発表 22

土器形態における低視覚的属性の検討と有効性—低視覚的属性間の相関性—  
黒木梨絵 ((公財) 鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター)

研究発表 23

土器胎土の個体内均質性—民族考古学・実験考古学・先史考古学的研究素材の蛍光 X 線分析—  
中園 聡 (鹿児島国際大学)

研究発表 24

鹿児島県内の平安時代の須恵器の産地問題 (第1報)—中岳窯跡群、荒尾窯跡群、岡野窯跡群出土須恵器の相互識別—  
三辻利一 (鹿児島国際大学)、中園 聡 (同)、平川ひろみ (同大学院)、太郎良真妃 (同)、白井菜実 (同)、鶴田京佑 (同)、下小牧 潤 (鹿児島国際大学)



ご協力ありがとうございました。

次回は三月。大阪大学でお会いしましょう。

## 2014年度日本情報考古学会学会賞

2014年度の日本情報考古学会賞は、以下のよう  
に決定しました。

日本情報考古学会第33回大会（於 東京農工大学）  
において、2014年9月28日に授賞式が開かれ、植木  
会長より表彰状と記念の盾が贈られました。

受賞者の方々、おめでとうございます。今後のま  
すますのご発展を祈念いたします。

学会賞 該当者無し

論文賞 酒井英男氏・菅頭明日香氏・小黒智久氏  
「竪穴住居上屋土壌の火災による落下状  
況を残留磁化から探る研究」（『情報考古学』  
Vol.19 No.1・2, 2013）

堅田賞 村木祐太氏・千葉史氏・今野晃市氏（「多  
（優秀賞）数の遺物を一括測定可能なレーザー型自  
動計測システム」『日本情報考古学会講演  
論文集』Vol. 12 掲載の業績）

堅田賞 中園聡氏・太郎良真妃氏・平川ひろみ氏・  
（優秀賞）川宿田好見氏（「土器形態における製作者  
の個人内変異と個人間変異 — 北タイの伝  
統的土器製作から —」『日本情報考古学会  
講演論文集』Vol. 11 掲載の業績）

## 2014年度日本情報考古学会総会報告

2014年度日本情報考古学会総会を以下のとおり行  
いましたので、お知らせいたします。

日 時：2014年9月28日（日）12:00～12:20

場 所：東京農工大学小金井キャンパス 工学部講義  
棟 L0022 教室

冒頭、新屋敷久美子会員が議長に選出され、以下の  
議題について審議された。

議題

1. 2013年度会計報告について

### 日本情報考古学会平成25年度決算報告書

収入		支出	
繰越金	593,362	情報考古学第18巻1・2 号印刷費	420,000
会費 (含前受取分)	411,000	第31回大会プログラム 印刷費	17,700
大会開催費 (含懇親会費)	476,600	第31回大会講演論文集 印刷費	105,000
冊子売上	14,740	大会開催費 (含懇親会費, 学会賞副賞代)	276,287
利息	20	事務局維持費 (含アルバイト代, 管理費等)	103,820
雑収入 (広告費, 展示費)	0	手数料	3,772
立替金	137,565	送料	144,440
寄付金	36,215	テープ起こし代	25,175
		会員管理システム契約料金	269,892
合計	1,669,502	合計	1,366,086
		※次年度繰越金	303,416

### 日本情報考古学会平成26年度予算

収入		支出	
繰越金	303,416	情報考古学第19巻1・2 号印刷費	420,000
会費	620,000	第32回大会講演論文集 印刷費	97,200
大会開催費 (含懇親会費)	500,000	第33回大会講演論文集 印刷費	60,000
		第34回大会講演論文集 印刷費	60,000
冊子売上	12,000	大会開催費 (含懇親会費, 学会賞代)	198,200
雑収入	10,000	事務局維持費 (含アルバイト代, 消耗品費)	152,000
		手数料	4,000
		送料	76,160
		前年度立替金返済	137,565
合計	1,445,416	合計	1,205,125
		次年度繰越金	240,291

事務局の説明の後、会計監査の結果、適正に会計処理がなされたことが確認された旨の報告があり、承認された。また、帳簿・領収証等の記録類が精確に整理されていた点に特に言及があった。

## 2. 2014年度予算案について

事務局より予算案について説明があり、承認された。引き続き支出を抑える工夫をしており、今後財政が少しずつ好転する見通しであることも付言された。

最後に、次回第34回大会は3月に大阪大学で開催予定であることが発表された。

## 2014年度第1回理事会議事録

日時：2014年9月27日（土）10:00～12:45

場所：東京農工大学小金井キャンパス 10号館 5階 5-Z室

出席者：植木武（議長）、及川昭文、佐藤宏介、植村俊亮、岡安光彦、中園聡、西村淳、宝珍輝尚、三瓶裕司、三辻利一（理事）、安本美典（監事）、平川ひろみ（事務局より陪席）

### 1. 報告

#### 1. 2014年度の会員の異動について

新規入会が6件（正会員4名、準会員1名、賛助会員1件）あった。退会は正会員2名の届けがあった。

#### 2. 学会誌編集委員会報告

今年度からの電子化について確認された。4件の投稿論文により合併号とする予定である。

#### 3. MMB 会員管理システムの廃止について

MMB 会員管理システムは今年度より会員の利用を停止しているが、業者との書面を取り交わし正式に廃止が決定した旨報告された。業者は責任をもって会員情報を破棄し、11月末以降は本学会事務局で一元的に管理する。

#### 4. 日本学術会議協力学術研究団体について

本学会は日本学術会議協力学術研究団体に指定されており、日本学術会議との協力関係を維持するとともに会員に有益な情報は積極的に伝えるようにするつもりである旨報告された。

#### 5. 情報処理学会 じんもんこん「人文科学とコン

ピュータシンポジウム（じんもんこん2014）」の後援について

12月開催の標記シンポジウムの後援依頼があり、従来の実績を踏まえ後援することになったことが報告された。

#### 6. 大学図書館リポジトリへの収録・公開の許諾について

登録許可依頼があったものについては編集委員会等で検討・許可を行った。今後、学会として規程や方針を整備する必要がある旨の報告がなされた。

#### 7. 『会報』（印刷版、オンラインジャーナル版）・『講演論文集』のISSNについて

今年度発行の、『会報』の印刷版とオンラインジャーナル版（No.34）、及び『講演論文集』（Vol.13（通巻33号））からISSNが付与された。今後本学会刊行物について適切な申請・管理等に取組む旨の報告がなされた。

### 2. 審議事項

#### 1. 2013年度会計報告（案）について

事務局より資料をもとに報告・提案がなされ、監事より会計処理が適切になされている旨の報告があり、承認された。

#### 2. 2014年度予算（案）について

基本的に経費削減・財政の健全化を旨として前回理事会で大筋承認済みであった予算案について、事務局より実績に応じて修正したものについて提案がなされ、審議の結果承認された。

#### 3. 学会賞の選考について

学会賞選考委員会より2014年度学会賞の案が提示され、承認された。

学会賞 該当者無し

論文賞 酒井英男氏・菅頭明日香氏・小黒智久氏  
「竪穴住居上屋土壌の火災による落下状況を残留磁化から探る研究」（『情報考古学』Vol.19 No.1・2, 2013）

堅田賞（優秀賞） 村木祐太氏・千葉史氏・今野晃市氏（「多数の遺物を一括測定可能なレーザー型自動計測システム」「日本情報考古学会講演論文集」Vol.12掲載の

業績)

中園聡氏・太郎良真妃氏・平川ひろみ氏・川宿田好見氏(「土器形態における製作者の個人内変異と個人間変異—北タイの伝統的土器製作から—」『日本情報考古学会講演論文集』Vol. 11 掲載の業績)

#### 4. 学会賞のあり方について

学会賞について、過去の規程類を運用で対処している部分があること、また学会賞のあり方について明確化する必要があることなど、事務局より検討事項が指摘された。審議の結果、より意義ある賞とすべく選考基準・選考方式等の見直しを検討することになった。

#### 5. 会員資格のあり方について

事務局より、会則第5条に関する入会資格の具体的な認定基準について、曖昧な点があるため確認する必要があるとの要望が出された。そこで、日本学術会議協力学術研究団体の要件を維持することも考慮しつつ、基準を明確化する必要性等が話し合われた。入会申込書の様式に変更を加えることになった。また、会則の一部変更等の可能性を含め、今後、組織・会則委員会で検討することになった。

#### 6. 学会誌、一般講演の査読規程等および審査基準について

学会誌の論文や大会での一般講演の査読規程について、広く外部に分かりやすいものを整備・公開する必要があるとの認識で一致し、取り組むことになった。

#### 7. 学会誌の電子化について(継続審議)

学会誌の電子出版に関して、具体的な出版形式や経費、留意事項等について話し合われた。DTP編集の作業については事務局で行うことなどが合意されたが、詳細はさらに検討し詰めることとした。

#### 8. 論文の学会誌掲載有料化について(継続審議)

投稿料等を将来有料化するか否か、全体的枠組みを含めて整理・検討しつつあるが、今回は他学会の現状等について話題に出た。今後さらに検討することになった。

#### 9. 次回大会について

第34回大会は、2015年3月28日・29日に大阪大学豊中キャンパスを会場として実施することになった。

### 学会誌『情報考古学』の発行形式について

『会報』等でお知らせしてきたように、学会誌『情報考古学』は、冊子体を廃止し電子出版へ移行する計画でした。しかし、理事会等での真剣な検討の結果、冊子体の継続と電子媒体での出版とを両立する方策に一定のめどがつかしました。

学会内でDTP編集を行うなど印刷・発行方式を見直し、冊子体発行の経費を大幅に削減することによって、『情報考古学』の冊子体での発行は、継続します。これにより、冊子体に慣れ親しまれた方々にもこれまで通り、安心してご利用いただけます。

学会誌『情報考古学』の電子版の刊行を近く開始します。冊子体と電子版の両方を当面は並行発行していくこととなります。電子版ではカラーの使用等も可能ですので、従来よりも見やすく綺麗な誌面を会員の方には無料で提供する予定です。

以上を実施しつつ、会員の皆さまの利用状況やご意見等を踏まえて、学会誌発行のあり方を検討してまいります。

詳細につきましては、会報等の送付物、学会ホームページで改めてご案内する予定です。ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

JOURNAL OF COMPUTER ARCHAEOLOGY	日本情報考古学会誌
COMPUTER ARCHAEOLOGY	情報考古学
JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION	JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION
Vol.20 No.1-2, 2014	Vol.20 No.1-2, 2014
ARTICLE	論文
Narrow on the central structure of neurons from the wall by the ground penetrating radar	壁面からの狭帯域レーザ探査による遺構内構造の解析
Yoshitaka UEMURA and Hisako SAKAI	泉 浩一・清見 真
An Automated Laser Measurement System Enabling Batch Measurement of Numerous Cultural Assets	多数の遺構を一掃測定可能なレーザー計測システム
Yasuhiro MIYAKE, Yoshinori AZUMIYAMA, Kenji CHIBA, Kazuyuki MATSUYAMA and Kenichi KONDO	——村本 隆夫・阿蘇 洋平・千葉 健一・松本 隆夫・山崎 隆一・野村 浩
X-ray Fluorescence Analysis of Ceramic Implants Encountered from the Hiraogata Site Group	埋没位置群出土土器のX線蛍光分析
Shohei MIYAZAKI, Tomohiko FURUKAWA, Tomohiko OGURA, Hisao HIRAKAWA, Maki TADOKA and Naoki SHIBATA	——宮崎 尚平・宮崎 智博・小野 大輔・大塚 智博・大塚 尚・田岡 真
Identifying the sources of ancient obsidian artifacts in Shikoku based on their magnetic properties	石見産の古代黒曜石製品を有田産から識別する
Azusa KANDA and Hisako SAKAI	香取 亜紗・泉 浩一
RESEARCH NOTE	研究ノート
Thermal history of archaeological materials studied by their magnetic properties	考古学材料の熱履歴を磁気特性から調べる
Hisako SAKAI and Yoshitaka UEMURA	泉 浩一・清見 真
INFORMATION ON THE JAPAN SOCIETY FOR ARCHAEOLOGICAL INFORMATION	日本情報考古学会の最新情報
MESSAGE FROM THE EDITOR	編集後記

最新号を近くお届けします。

## 第34回大会の開催・発表募集について

日本情報考古学会第34回大会を下記のとおり開催いたします。つきましては研究発表（一般講演）を募集しておりますので、ふるってご応募、ご参加ください。

開催日 3月28日（土）・29日（日）の2日間

1日目 3月28日（土）13:00 ※～

2日目 3月29日（日）10:00 ※～

※上記時間は予定です。発表件数等の都合で前後します。ご了承ください。

場 所 大阪大学 豊中キャンパス

基礎工学国際棟

（豊中キャンパスマップ21番 下記参照）

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka/toyonaka.html>

最寄駅：阪急電車宝塚線 石橋駅（特急・急行停車）または、大阪モノレール 柴原駅

※詳しくは、学会HPより各自ご確認ください。

※ご宿泊の予約等は各自でお願いいたします。

発表申込締切 2015年2月6日（金）

原稿締切 2015年3月10日（火）※厳守

※学会ホームページから発表申込用紙をダウンロードし、事務局宛にメールでご提出ください。

※募集の詳細は別途お送りするご案内および学会ホームページをご覧ください。ホームページで開催に関する詳細情報についても逐次お知らせしていきます。

## 『日本情報考古学会講演論文集』最新号の頒布



『日本情報考古学会講演論文集』Vol.13（通巻33号）が、2014年9月に発行されました。第33回大会の発表に関連する論文等が収録・掲載されています（本文108頁）。頒価2000円＋送料（メール便1冊82円）。

ぜひ事務局まで、お申込みください。その際、メール等にお届け先と冊数を明記ください。

## お願い

◆会員の皆さまにおかれましては、年会費の納入にご協力いただき、ありがとうございます。近く、会費の納入のご案内を差し上げますので、ご準備をよろしくお願いいたします。

なお、会費については間違いがあってはなりませんので、事務局では特に注意を払っているところです。しかし、同一年度のお振込みを複数回されてしまう方や、納入したかどうか忘れてしまった、という方もおられます。お一人ずつに請求をお送りすることにしていきますので、納入状況がご不明な方は、それをご覧になってからご納入ください。

◆本学会では、会員の皆さまに送付物等を正しくお届けするよう努力しているところです。つきましては、住所、所属、役職、送付・連絡先等に変更がある方は、直ちに事務局までご連絡くださいますよう、ご協力ください。

◆会員（正会員、準会員）、賛助会員（法人等）を募集しています。お心当たりがございましたら、ぜひご案内ください。入会ご希望の方は、「入会申込書」を事務局までご送付ください。また、賛助会員の場合は「賛助会員入会の手引き」をご覧のうえ、お申込みくださいますよう、お願いいたします。申込書の様式や手引きは、本学会ホームページに掲載しています。「学会」→「入会」でご覧になり、ダウンロードしてご使用ください。

本学会は下記の賛助会員よりご支援いただいています。

株式会社 四門

株式会社 CUBIC

国際文化財株式会社

ほか

日本情報考古学会会報 No.35

2015年1月19日

発行 日本情報考古学会事務局

〒891-0197 鹿児島市坂之上8丁目34-1

鹿児島国際大学中園聡研究室内

E-mail: [archaeoinfoiuk@gmail.com](mailto:archaeoinfoiuk@gmail.com)

<http://www.archaeo-info.org/>